



3月号 令和3年2月26日発行

荏田小だより

横浜市都筑区荏田南町694番地 [TEL911-0149]



「Society5.0」と「自己の確立」

校長 伊藤 智樹

令和2年度も残り1か月になりました。今年度は新型コロナウイルスの影響で異例の長期臨時休業と6月からの分散登校による学校再開で始まった年度でした。子どもたちは「新しい学校生活様式」を意識した学校生活を送っていたと思います。子どもたちは一人ひとり手洗いやマスクの着用、給食時のマナーなどを頑張っていました。そのような状況下ではありますが子どもたちは様々な場面で、一生懸命な姿や協力し合う姿を見せてくれたことに私はとてもうれしく思うとともに申し訳ない気持ちでいっぱいです。



平成30年、文部科学省は「Society 5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会」で学びのあり方の変革を提唱しました。「**Society5.0**」とは第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された言葉です。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、**5番目の新たな社会のことを意味した用語**です。サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）の融合の中で実現される、それぞれの多様な個性を尊重しそれを活用できる新しい社会への期待が込められています。GIGAスクール構想もSociety 5.0に向けた学びが基盤にあります。

本校でもICT教育を各教科の中で試行を含め実践しています。（本号次項に掲載）子どもたちは操作等に慣れるのもはやく私たちが驚かされることがあります。6年生の社会科授業を見ているときのことで。ロイロノートを使ってレポートを作成している児童が「先生、iPadで作るのもいいけど私は手書きでまとめた方がいいな。」と笑いながら私に話していました。ロイロノートには一人ひとりの意見をチャット形式によって学級全体で共有することができる仕組みもあります。この機能を活用すると授業時間内で全員の意見を反映することができます。サイバー空間とフィジカル空間のバランスの大切さとICTが最終目的ではなくあくまでも手段のうちの一つであることを実感しました。



自己を確立せねばならない。
自分にきびしく、相手にはやさしく。という自己を。
そして、すなおでかしこい自己を。
二十一世紀においては、特にそのことが重要である。
二十一世紀にあっては、科学と技術がもっと発達するだろう。科学・技術が、こう水のように人間をのみこんでしまってはならない。川の水を正しく流すように、君たちのしっかりした自己が、科学と技術を支配し、よい方向に持って行ってほしいのである。右において、私は「自己」ということをしきりに言った。自己といっても、自己中心におちいってはならない。

『21世紀に生きる君たちへ』 司馬遼太郎

左の文章は司馬遼太郎が小学校教科書のために書き下ろしたもののからの抜粋です。技術革新が進みSociety5.0が提唱されている今だからこそ「**しっかりと自己**」を大切にしたいと思います。

2度目の緊急事態宣言の発令がなされ、教育活動の制限がある中で子どもたちも保護者の皆様もご心配されることが多いかと思ひます。感染症の終息の見通しが立つまでは情勢によって今後も様々な対応が生じるかと思ひます。引き続きメール等を活用

してお知らせしたいと思います。子どもの安全を最優先にしながら卒業していく6年生とともに、令和2年度の総まとめをし、令和3年度を迎えたいと思ひます。

今年度も、保護者や地域の皆様にはたいへんお世話になりありがとうございました。来年度も地域と共に歩み、保護者・地域の皆様から信頼される学校を目指し、教職員一丸となって努力を積み重ねて参ります。引き続き温かいご支援ご協力をよろしくお願ひします。